



System i

System i 接続

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応)

バージョン 6 リリース 1





System i

System i 接続

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応)

バージョン 6 リリース 1

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、29 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM i5/OS (5761-SS1) のバージョン 6、リリース 1、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

IBM 発行のマニュアルに関する情報のページ

<http://www.ibm.com/jp/manuals/>

こちらから、日本語版および英語版のオンライン・ライブラリーをご利用いただけます。また、マニュアルに関するご意見やご感想を、上記ページよりお送りください。今後の参考にさせていただきます。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： System i
Connecting to System i
System i Navigator for Wireless
Version 6 Release 1

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2008.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2002, 2008. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2008

目次

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応)	1	System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) によるシステムの管理	16
I V6R1 の新機能	2	System i モデルの操作	17
System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の PDF ファイル	2	統合サーバーの操作	18
System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のセットアップ	3	タスクの操作	19
ハードウェアおよびソフトウェア要件	3	複数のシステムにまたがったコマンドの実行	20
装置の選択	4	モニターの表示および操作	21
装置の選択: インターネット対応電話	4	システム・モニター	22
装置の選択: PDA	5	ジョブ・モニター	24
装置の選択: PC	7	メッセージ・モニター	25
インターネット保護計画の策定	7	ファイル・モニター	25
ワイヤレス環境の構成	7	B2B 活動モニター	26
I Web アプリケーション・サーバーの構成	8	System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の関連情報	26
ファイアウォールの構成	9		
マネージメント・セントラルの構成	9	付録. 特記事項	29
言語の選択	11	プログラミング・インターフェース情報	30
セントラル・システムへの接続	12	商標	30
接続のカスタマイズ	14	使用条件	31

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応)

System i™ ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、Web アプリケーション・サーバーを実行する i5/OS® プログラムです。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、管理者は、インターネット対応電話、ワイヤレス・モデム付き携帯情報端末 (PDA)、またはワークステーション上の従来の Web ブラウザーを使用して、システムの性能、状況、ジョブ、およびメッセージをリモート側でモニターおよび管理することができます。

複数のシステムを管理することは、成長企業を運営する上での困難な側面の 1 つです。IBM は、管理者がシステムを管理しやすくするためにマネージメント・セントラルを発表しました。ユーザーは、マネージメント・セントラルの使いやすさ、柔軟性、および能力による恩恵を受けてきました。複数のシステムにまたがった修正の管理やコマンドの実行から、システム性能に関するリアルタイム・グラフの表示に至るまで、管理者は、マネージメント・セントラルを使用することにより、作業の効率を大幅に向上させてきました。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) により、管理者は、これまでより柔軟に、マネージメント・セントラルへのアクセスや操作を行うことができるようになります。

セントラル・システムの Web サーバー上で実行されるように System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を構成したら、システムの URL をインターネット対応電話、PDA、またはブラウザーに入力して、以下の作業を行うことができます。

- システム状況を監視する。
- システムのプロパティを表示する。
- 以下の詳細な要約を表示する。
 - コマンド
 - パッケージと製品
 - インベントリ
 - 修正
 - 収集サービス
 - ユーザーとグループ
 - システム値
- 統合サーバーを管理する: すべての統合サーバー上で同時に、または 1 台の統合サーバー上だけでコマンドを実行したり、統合サーバーを始動またはシャットダウンしたりします。
- 複数のシステムにまたがって i5/OS のコマンドを実行する。
- モニターを表示および操作する。
 - **システム・モニター:** モニター中のメトリックや現行値、およびメトリック値を構成している上位 20 個の要素 (ジョブやディスク装置など) を表示する。モニターにリストされているジョブを操作する (詳細の表示、保留、保留解除、終了)。
 - **ジョブ・モニターとメッセージ・モニター:** 複数のシステムにまたがって、モニター基準に合致するすべてのジョブとメッセージを表示する。モニター中のメトリックと現行値を確認する。モニターにリストされているジョブやメッセージを操作する (詳細の表示、保留、保留解除、終了、削除、応答)。
 - **ファイル・モニター:** システム・パス、サイズ、変更されたデータ、およびファイルを生成したテキストといった、ファイルの詳細状況を表示する。

- **B2B 活動モニター**: 企業間取引の詳細を表示して、モニター中のメトリックと現行値を確認する。
- 読み取り専用サポートを有効にすることにより、またはアプリケーション管理を使用してユーザー・アクセス・レベルを設定することにより、ユーザーが行える操作を制限する。ユーザーが、状況情報を表示することはできるが、操作は行えないようにする。

以下の情報は、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の利用を開始するにあたっての参考情報として提供されており、使用する装置の選択に関するヒント、必要な要素をインストールして構成する方法、および機能の概要について説明しています。

| V6R1 の新機能



| System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) における新機能および大幅な変更点については、該当するトピックを参照してください。

| ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバー

| V6R1 の場合、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーをサブレット・エンジンとして使用する場合のみ稼働できます。

| 新機能や変更点の確認方法

| 技術的な変更がどこにあったかを分かりやすくするため、Information Center では以下のイメージを使用しています。

- | •  このイメージは新しい情報または変更情報が始まる場所を示します。
- | •  このイメージは新しい情報または変更情報が終わる場所を示します。

| PDF ファイルの場合は、新しい情報または変更情報の左余白にリビジョン・バー (I) が付けられています。

| 今回のリリースでの新機能や変更点についてのその他の情報は、「プログラム資料説明書」を参照してください。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の PDF ファイル

この情報の PDF ファイルを表示および印刷することができます。


この文書の PDF 版を表示またはダウンロードするには、「System i ナビゲーター (ワイヤレス対応)」を選択します。

PDF ファイルの保存

表示用または印刷用の PDF ファイルをワークステーションに保存するには、次のようにします。

1. ご使用のブラウザで PDF のリンクを右クリックする。
2. ローカルに PDF を保存するオプションをクリックする。
3. PDF を保存したいディレクトリーに進む。
4. 「保存」をクリックする。

Adobe Reader のダウンロード

これらの PDF を表示または印刷するには、Adobe®Reader がシステムにインストールされている必要があります。Adobe Reader は、Adobe の Web サイト (www.adobe.com/products/acrobat/readstep.html)  から無償でダウンロードすることができます。

関連資料

26 ページの『System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の関連情報』

IBM® の Redbooks™ 資料および Web サイトでは、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に関連する情報を提供しています。また、すべての PDF ファイルを必要に応じて表示、印刷することができます。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のセットアップ

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用するには、ソフトウェアおよびハードウェアに関する一定の要件が満たされていなければなりません。ユーザーは、使用するワイヤレス装置の種類やインストールして構成する必要があるアプリケーションの種類を決定する必要があります。

関連概念

16 ページの『System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) によるシステムの管理』

ワイヤレス装置からシステムを管理することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、マネージメント・セントラルと統合サーバーの両方でモニターを操作することができます。コマンドの実行、タスクやシステムの操作、およびユーザー・アクセスの制御を行うことができます。

ハードウェアおよびソフトウェア要件

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) をセットアップする前に、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の実行に必要なソフトウェアとハードウェアが、すべて揃っているかどうかを確認しなければなりません。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の最新の拡張機能を実行するには、以下の要素が必要になります。

- System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を含む、System i Access for Wireless ライセンス・プログラム (5722-XP1)
- 機能を実行するための以下の装置
 - ワイヤレス・インターネット・サービスが利用可能なインターネット対応電話
 - Web ブラウザーとワイヤレス・モデムが装備され、ワイヤレス・インターネット・サービスが利用可能な携帯情報端末 (PDA)
 - ワークステーション上の従来の Web ブラウザー
- OS/400® V5R2 以降が稼働している TCP/IP ネットワーク上のシステムこのサーバーは、マネージメント・セントラルによって使用されるセントラル・システムになります。
- セントラル・システム上で稼働している (ライトウエイト・インフラストラクチャーなどの) Web アプリケーション・サーバー

注: V6R1 の場合、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、ライトウエイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーをサブレット・エンジンとして使用する場合があります。

次の図は、ワイヤレス装置がインターネットおよびファイアウォールを経由してマネージメント・セントラル・システムに接続し、情報を送受信している様子を示しています。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) と Web アプリケーション・サーバーは、両方とも、セントラル・システム上にインストールされています。セントラル・システムは、4 つのエンドポイント・システムに接続しています。

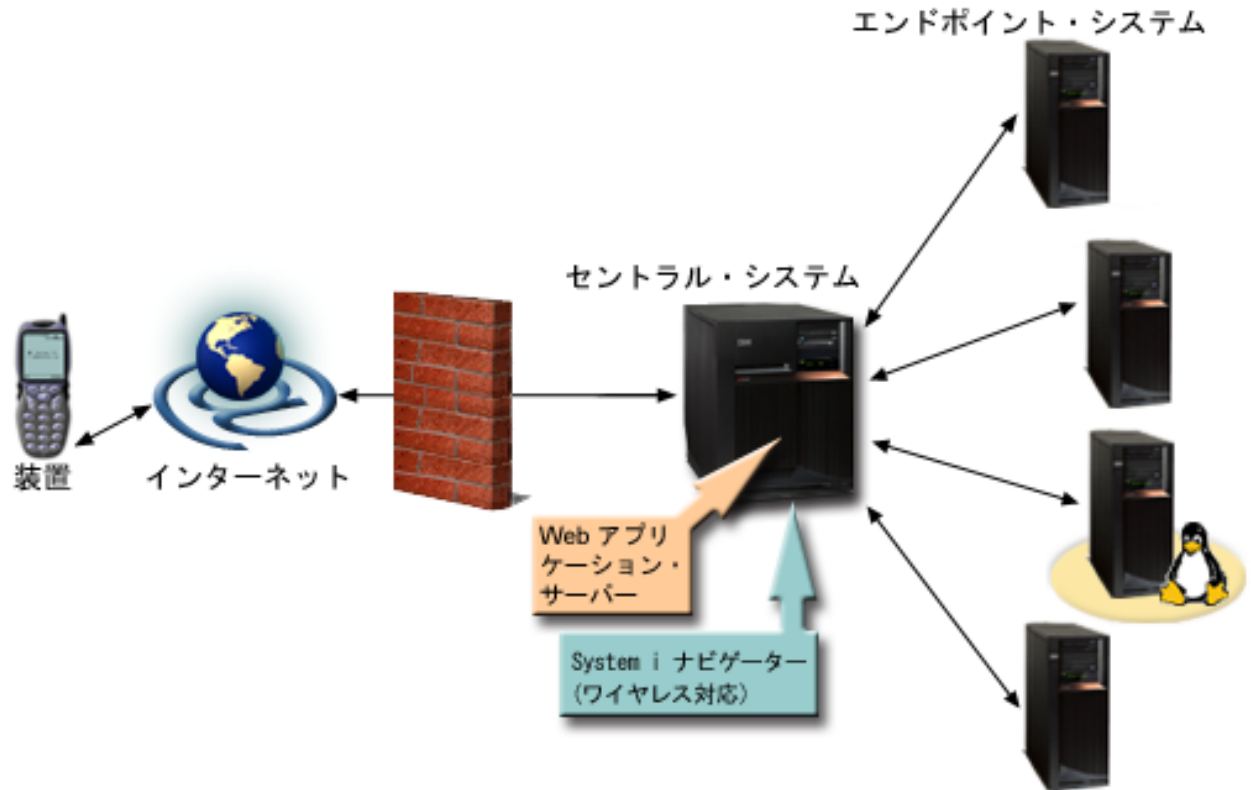


図1. マネージメント・セントラルに接続しているワイヤレス装置

装置の選択

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に対応した装置を選択する必要があります。

インターネット対応電話とワイヤレス携帯情報端末 (PDA) は、日進月歩のテクノロジーです。これらの装置は、画面サイズ、およびその他の多くの重要な特性について異なります。ここで提供する情報は、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に対応した装置を選択する際に役立ちます。ワイヤレス・インターネット・ブラウザ機能がサポートされていれば、その他のワイヤレス装置でも対応している場合がありますが、操作方法は異なることがあります。

装置の選択: インターネット対応電話

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) とともに使用するインターネット対応電話を選択する場合は、電話機の物理的特性、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) との対応、サポートしている Web ブラウザー、および利用可能なワイヤレス・インターネット・サービスについて考慮する必要があります。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) とともに使用するインターネット対応電話を選択する際には、以下の要素を考慮してください。

- 電話機自体の物理的特性 (ディスプレイ・サイズやボタンの位置など)
- 電話機でサポートされている Web ブラウザー (多くの場合、マイクロブラウザまたはミニブラウザと呼ばれます)
- インターネット対応電話を使用する地域において、このインターネット対応電話で利用できるワイヤレス・インターネット・サービス

多くの場合、インターネット対応電話のディスプレイ・サイズは、使いやすさに影響します。一般に、電話機のディスプレイの水平解像度が高いほどデータが見やすくなります。ディスプレイ・サイズに関係なく、多くの場合、ボタンなどのスクロール機構を使用して電話機のディスプレイを下方にスクロールする必要があります。また、表示される線の太さも考慮に入れる必要があります。

通常はインターネット対応電話には、すでにマイクロブラウザが組み込まれています。このため、特定の電話機を選択すると、同時にブラウザも選択することになります。現在、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、Openwave Mobile Browser (以前の名称は UP.Browser) バージョン 3.1 以降をサポートしています。最適な結果を得るには、このマイクロブラウザをサポートしている電話機を選択してください。

ワイヤレス・インターネット・サービスとは、インターネット対応電話上でデータを送受信するためのサービスです。このサービスは電話向けの音声サービスとは異なりますが、特定のプロバイダーでは、これら 2 つがセットになって提供されている場合もあります。選択する電話機が、この電話機を使用する地域で利用可能なワイヤレス・インターネット・サービスでサポートされていることを確認してください。


System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) への対応

次のインターネット対応電話は、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に対応しています。

電話機	テストのタイプ	ワイヤレス・サービス	注釈
三菱 T250	装置	AT&T PocketNet	小さいフォントの設定をお勧めします。
注: 他にも、Ericsson R280 LX など、シミュレーターによるテスト済みの電話機があります。			

その他のインターネット対応電話も、対応している場合があります。世界中の多くの電話機メーカーが、Openwave Mobile Browser のライセンスを受けています。あらゆる HTML ブラウザー、Wireless Markup Language (WML) 電話、および HTML ブラウザーが実装されている Blackberries (OS バージョン 4.0) は、System i Access for Wireless とともに使用することができます。さらに、これらのメーカーのうちの多くが、2 機種以上の電話機でこのブラウザをサポートしています。OpenWave Mobile Browser がサポートしている電話機のリストについては、Openwave 社製対応電話機の Web ページを参照してください。

関連情報

 [Openwave の対応電話機の Web ページ \(英語\)](#)

 [Openwave の Web サイト \(英語\)](#)

装置の選択: PDA

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) では、携帯情報端末 (PDA) 上で稼動する Web ブラウザーを使用します。インターネット対応電話の場合とは異なり、選択する PDA 装置によってブラウザが決定されることはありません。

購入時点で PDA に Web ブラウザーが組み込まれていた場合でも、別の Web ブラウザーをインストールすることができます。インターネットから、多くの PDA 装置用 Web ブラウザーをダウンロードすることができます。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に対応している PDA ブラウザー

PDA 装置用 Web ブラウザーには、数多くの種類があります。多くの場合、各ブラウザは、サポートしている HTML 要素が異なります。一部のブラウザは、他とは異なる方法でテキストを処理します。また、画像や表を表示できるブラウザとできないブラウザとがあります。他よりも高度な保護機能やセキュリティ機能を備えたブラウザもあります。以下のブラウザは、PDA から System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を実行するのに必要な要素をサポートしています。

- AvantGo バージョン 3 以降
- EudoraWeb バージョン 1.1 以降
- Go.Web バージョン 6.0 - RIM Blackberry 用

PDA 上で動作するその他の Web ブラウザーも、対応している場合があります。注意していただきたいのは、ブラウザでの HTML の表示方法が異なる場合は、上記のブラウザを使用した場合とは異なる形で、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) が表示されたり動作したりすることがあるということです。

セキュリティを強化する必要がある場合は、Secure Sockets Layer (SSL) をサポートしているブラウザを使用してください。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に対応している PDA

以下の PDA は、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に対応しています。

PDA	オペレーティング・システム	ワイヤレス・モデム	ワイヤレス・サービス
Palm V または Vx	Palm OS バージョン 3.3	Minstrel V	AT&T
Palm III または IIIx	Palm OS バージョン 3.3	Minstrel III	AT&T
RIM Blackberry	RIM	内蔵	GoAmerica 社
京セラ QCP 6035	Palm OS	内蔵	Sprint 社

その他の多くの PDA も、おそらく対応しているでしょう。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) はブラウザ上で実行されるため、どの PDA を選択しても同じです。ただし、テスト済みなのは、この表内の PDA のみです。Web ブラウザーを実行でき、HTML をサポートしている装置であれば、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に対応しているものと思われます。

PDA 用のモデムとワイヤレス・インターネット・サービス

モデムは、選択した PDA に対応したものを選択する必要があります。さらに、ワイヤレス・インターネット・サービス・プロバイダー (ISP) も探す必要があります。ワイヤレス・インターネット・サービスを使用すると、PDA 上でモデムを使用してデータを送受信できるようになります。モデムとサービスを選択する際には、必ず PDA を使用する地域でサポートされている組み合わせを選択してください。

関連情報



AvantGo



Eudora の Web サイト (英語)

装置の選択: PC

従来の Web ブラウザーを System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) とともに使用することもできます。

IBM System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、インターネット対応電話や PDA 上で稼働します。しかし、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、PDA のブラウザ上で稼働するため、従来の Web ブラウザー上でも稼働します。PDA ブラウザーの方が制限が多いので、ワークステーション上で現在使用されている Web ブラウザーであれば対応します。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) には小さなディスプレイしか必要ないため、ブラウザ用の小さなウィンドウをワークステーション画面の隅に配置することをお勧めします。こうすることで、デスクトップ上を乱雑にさせず、システムやモニターの最新状況を把握することができます。

PC 上で従来のインターネット・ブラウザを使用している場合は、メインメニューから「**レポートの取得 (Get Report)**」を選択し、ブラウザを最大サイズにして、すべての情報を表示することができます。

インターネット保護計画の策定

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のユーザー認証はインターネット経由で行われるので、認証情報を保護するためのインターネット保護計画を策定する必要があります。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のサブレットは、リモート・ユーザーのユーザー ID を取得する必要があるため、ユーザーを認証できるように、Web アプリケーション・サーバーを構成またはセットアップしなければなりません。サブレットは、このユーザー ID を使用して、マネージメント・セントラルと通信します。この認証はインターネット経由で行うことができるので、認証情報 (ユーザー ID とパスワード) を保護するための保護計画を立てる必要があります。

また、クライアントとサーバー間で転送されるデータには、システム管理情報が含まれています。このため、分析を行って、このデータに要求される保護レベルを決定する必要があります。この計画を策定するにあたっては、以下の質問を考慮に入れる必要があります。

- サブレットへのアクセスには、どのようなサービスが使用されるのか (インターネット、セントラル・システムに接続されたクライアント上のブラウザ、または両方)?
- どのようなクライアント装置が使用されるのか、またこれらの装置上で使用されるブラウザにはどのようなセキュリティ機能が備わっているのか?
- どのようにして必要な保護を Web アプリケーション・サーバー上で構成またはセットアップするか?
- クライアントとサーバー間で転送されるデータの機密性レベルは?

保護計画を策定するには、「AS/400® インターネット・セキュリティのシナリオ: 実践的なアプローチ (AS/400 Internet Security Scenarios: A Practical Approach)」を参照してください。

関連情報

ワイヤレス環境の構成

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用する前に、Web アプリケーション・サーバーとファイアウォールが適切に構成されていることを確認してください。

関連概念

12 ページの『セントラル・システムへの接続』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の使用を開始するには、最初に、セントラル・システムへの接続を確立します。セントラル・システムの URL をワイヤレス装置に入力します。

Web アプリケーション・サーバーの構成

ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーを使用して、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のサブレットを実行することができます。

注: V6R1 の場合、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーをサブレット・エンジンとして使用する場合のみ稼働できます。

前提条件

以下の作業を行うには、QSECOFR 権限を持っている必要があります。また、以下の製品がインストールされている必要があります。

• IBM HTTP Server (5761-DG1)

• ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバー

ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーを構成するには、以下のステップを実行します。

1. 次のコマンドを実行して HTTP ADMIN サーバーを始動します。

```
STRTCPSVR *HTTP HTTPSVR(*admin)
```

2. 次のコマンドを実行して、ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーをサブレット・エンジンとして使用するよう System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) をセットアップします。

```
CALL QSYSDIR/QYPVSETUP PARM('-LWI ')
```

注: System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は常にポート 2004 上で実行されます。このポートは HTTP *ADMIN サーバーによって使用されます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を他のポート上にセットアップして実行することはできません。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を実行させるには、HTTP *ADMIN インスタンスが実行されていなければなりません。このコマンドは、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) をセットアップするため、1 回だけ実行します。ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーを使用する場合、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の複数のインスタンスを利用することはできません。

メインページにアクセスするには、その URL アドレス (<http://system:2004/McYpvPervasive>) を指定します。

これで Web アプリケーション・サーバーのセットアップが終了したので、続けてワイヤレス環境を構成することができます。

関連タスク

9 ページの『マネージメント・セントラルの構成』

マネージメント・セントラルを操作する際には、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) が提供する機能を最大限に活用することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を実行するのに PC は必要ありませんが、マネージメント・セントラルをセットアップするためには PC が必要です。

ファイアウォールの構成

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用する場合は、インターネット経由でシステムにアクセスします。ファイアウォールがある場合は、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を実行できるように、ファイアウォールの設定に変更を加えなければならないことがあります。

インターネット経由でシステムにアクセスしたことがなく、ファイアウォールを設置していない場合は、IBM Redbooks の「AS/400 インターネット・セキュリティのシナリオ: 実践的なアプローチ (AS/400 Internet Security Scenarios: A Practical Approach)」のスクリーン・ホスト・アーキテクチャーやスクリーン・サブネット・アーキテクチャーに関する章に、ファイアウォールの設置についての戦略が記載されていますので、参照してください。

関連情報



AS/400 インターネット・セキュリティのシナリオ: 実践的なアプローチ (英語)

マネージメント・セントラルの構成

マネージメント・セントラルを操作する際には、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) が提供する機能を最大限に活用することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を実行するのに PC は必要ありませんが、マネージメント・セントラルをセットアップするためには PC が必要です。

マネージメント・セントラルを構成する前に、以下のタスクを完了させる必要があります。

1. System i ナビゲーターを System i Access for Windows[®] ライセンス・プログラムのコンポーネントとして PC 上にインストールします。

その他のものをインストールする必要はありません。System i Access for Windows をインストールする際には、使用可能なコンポーネントのリストから System i ナビゲーターを選択し、それから、必要なコンポーネント (モニターやコマンド) を選択してください。

2. マネージメント・セントラル (セントラル・システム、エンドポイント・システム、モニター、コマンド) をセットアップします。

ワイヤレス装置からマネージメント・セントラルに接続するには、マネージメント・セントラルのセントラル・システムとして構成したエンドポイント・システム上に、Web アプリケーション・サーバーをセットアップしておく必要があります。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、マネージメント・セントラルとセットになっているため、マネージメント・セントラルで定義されたエンドポイント・システムやモニターを使用して、状況を報告したり、メトリック情報をモニターしたりします。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) で使用するようにはマネージメント・セントラルを構成するには、以下のステップを実行します。

1. 状況をモニターできるように、システムをネットワークに追加します。 エンドポイント・システムを追加するため、『エンドポイント・システムのマネージメント・セントラル・ネットワークへの追加』に記述されている手順を実行します。

マネージメント・セントラルでエンドポイント・システムとして指定されたシステムのみが、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に表示されます。これには、統合サーバーを使用するシステムも含まれます。特定のシステム上の統合サーバーを管理する場合は、そのシステムがエンドポイント・システムとして追加されていることを確認してください。

すべてのエンドポイント・システムを追加したら、各エンドポイント・システムに関する情報を System i ナビゲーター上で表示可能にするために、インベントリーを収集してください。

2. モニターを作成し、分かりやすい名前を付けます。ワイヤレス装置上でスクロールしなくても済むように、短い名前にしてください。モニターを作成するには、『新しいモニターの作成』に記述されている手順を実行します。

モニターに分かりやすい名前を付けることにより、そのモニターをワイヤレス装置上で簡単に認識できるようになり、そのモニターのモニター対象、そのモニターが起動しているかどうか、および発生している問題の重大度を知ることができます。

マネージメント・セントラルのモニターを使用すると、しきい値を設定したり、それらのしきい値に達した場合に自動処理が実行されるようにしたりすることができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の目的は、ユーザーがどこにいる場合でも、これらのモニターの状況を常に把握できるようにすることです。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、特定のシステムに関するメトリックや値を表示することもできます。

3. モニターを始動して停止します。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) からモニターを始動および停止することができますが、マネージメント・セントラルでモニターを始動した場合は、モニターがアクティブになって問題の発生を監視し、ワイヤレス装置からモニターにアクセスしたときにはデータがすでに収集されているようになります。問題が発生した後に、何らかの対象物についてさらに詳細なモニターが必要になることがよくあります。そのような場合に使用するトラブルシューティング・モニターをマネージメント・セントラルで事前に定義しておけば、後で System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用して始動することができます。

4. コマンド定義を作成します。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) からコマンドを実行することができます。しかし、インターネット対応電話に長いコマンドを入力することは、非常に面倒な作業となる場合があります。そのため、コマンド定義も表示され、その定義に含まれているコマンドを System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) から直接実行できるようになっています。コマンド定義は、好きな数だけ作成することができますが、小さなディスプレイでも表示できるように短い名前を付けてください。

コマンド定義を作成するには、以下のステップを実行します。

- a. 「マネージメント・セントラル」 → 「定義 (Definitions)」を展開します。
- b. 「コマンド」を右クリックし、「新規定義 (New Definition)」を選択します。「新規コマンド定義 (New Command Definition)」ウィンドウが開きます。

関連概念

マネージメント・セントラル

8 ページの『Web アプリケーション・サーバーの構成』

ライトウェイト・インフラストラクチャー Web アプリケーション・サーバーを使用して、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のサブレットを実行することができます。

関連タスク

System i ナビゲーターのインストール

コマンド定義の作成

言語の選択

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のデフォルトの言語は英語ですが、希望する言語が表示されるように装置を構成することができます。

オプション言語サポート修正 (PTF) をインストールすると、この言語を、使用している装置上または PC で使用しているブラウザ上で設定したり、URL で指定したりすることができます。言語を URL で指定する場合は、次の URL パターンに従ってください。

host . domain : port/servlet/McYpvPervasive?lng= lang

host: セントラル・システムのホスト名

domain: セントラル・システムが設置されているドメイン

port: Web サーバーのインスタンスの listen 対象ポート

lang: 表示する言語

使用可能な言語

言語	言語 ID	文字セット
オランダ語 (ベルギー)	nl_BE	iso-8859-1
中国語 (簡体字)	zh	gb2312
中国語 (繁体字)	zh_TW	big5
クロアチア語	hr	iso-8859-2
チェコ語	cs	iso-8859-2
オランダ語	nl	iso-8859-1
英語	en	iso-8859-1
フランス語	fr	iso-8859-1
フランス語 (ベルギー)	fr_BE	iso-8859-1
フランス語 (カナダ)	fr_CA	iso-8859-1
フランス語 (スイス)	fr_CH	iso-8859-1
ドイツ語	de	iso-8859-1
ドイツ語 (スイス)	de_CH	iso-8859-1
ギリシャ語	el	iso-8859-7
ハンガリー語	hu	iso-8859-2
イタリア語	it	iso-8859-1
イタリア語 (スイス)	it_CH	iso-8859-1
日本語	ja	shift-jis
韓国語	ko	euc-kr
ポーランド語	pl	iso-8859-2
ポルトガル語	pt	iso-8859-1
ブラジル・ポルトガル語	pt_BR	iso-8859-1
ルーマニア語	ro	iso-8859-2
ロシア語	ru	windows-1251
スロバキア語	sk	iso-8859-2
スロベニア語	sl	iso-8859-2
スペイン語	es	iso-8859-1

Netscape でのデフォルトの言語と文字セットの設定

言語を設定するには、「編集」→「プリファレンス」と選択し、「言語」をクリックしてください (使用可能な言語のリストを表示するには、「追加」をクリックします)。リストの一番上の言語のみが使用されます。

文字セットを設定するには、「表示」→「文字セット」と選択してください。

Internet Explorer でのデフォルトの言語と文字セットの設定

言語を設定するには、「ツール」→「インターネット・オプション」と選択し、「言語」ボタンをクリックしてください (使用可能な言語のリストを表示するには、「追加」をクリックします)。リストの一番上の言語のみが使用されます。

文字セットを設定するには、「表示」→「エンコード (Encoding)」と選択してください (リスト全体を表示するために「続く」を選択することが必要な場合があります)。

セントラル・システムへの接続

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の使用を開始するには、最初に、セントラル・システムへの接続を確立します。セントラル・システムの URL をワイヤレス装置に入力します。

- | 装置上でセントラル・システムの URL を指定する際には、次の書式に従ってください。URL の最後の部分 (/McYpvPervasive) が、下記のとおり正確に指定されていることを注意して確認してください。

- | *host.domain:port/McYpvPervasive*

- |

- | *host*: セントラル・システムのホスト名

- | *domain*: セントラル・システムが設置されているドメイン

- | *port*: Web サーバーのインスタンスの listen 対象ポート

インターネット対応電話の画面構成



インターネット対応電話上で System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用している場合、セントラル・システムに正常に接続した後、最初に表示されるのは要約画面です。この画面には、情報の最新度、リスト内のシステム数、稼働しているモニター数、および過去 24 時間以内に実行したタスクの数が表示されます。また、画面上部の「OK」または「重要」という表示によって全体状況を示すことにより、注意が必要な要素が存在するかどうかも通知されます。

「OK」と表示されている場合は、すべてのシステム、モニター、およびタスクは正常に稼働しています。

「重要」と表示されている場合は、システム、モニター、またはタスクに対してさらなる注意が必要です。システムが使用不可な場合、またはモニターやタスクが正常に動作していない場合は、注意が必要な要素の横に感嘆符が表示されます。モニターが起動した場合は、「モニター」の横にベルが表示されます。

注: 画像を表示できない電話機では、ベルの代わりにアスタリスクが表示されます。

PDA ブラウザーの画面構成

携帯情報端末 (PDA) ブラウザーの画面構成は、インターネット対応電話とほぼ同じです。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を初めて使用するときには、要約画面とともに、使用不可なシステムの数、起動したかまたは障害が発生したモニターの数、および正常に実行されなかったタスクの数が表示されます。一部の対応ブラウザーは画像を表示することができないため、装置で起動状況を表示する際に、ベルの代わりにアスタリスク (*) が使用されます。

従来のブラウザーの画面構成

従来のブラウザーの画面構成は、PDA ブラウザーの画面構成とまったく同じです。ただし画面サイズが大きいため、画面構成はより簡素に見えます。デスクトップ領域を有効に活用するために、PC 画面の隅に小さなブラウザー・ウィンドウを配置して、マネージメント・セントラルの機能を利用しながら、同時に他のアプリケーションを操作することもできます。PC 上で従来のインターネット・ブラウザーを使用している場合は、メインメニューから「すべて表示 (Show all)」を選択して、最大サイズのブラウザー・ウィンドウ上にすべての情報を表示することができます。

正常にシステムに接続したら、接続をカスタマイズして、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の操作を開始することができます。

関連概念

7 ページの『ワイヤレス環境の構成』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用する前に、Web アプリケーション・サーバーとファイアウォールが適切に構成されていることを確認してください。

『接続のカスタマイズ』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) への接続をカスタマイズする方法はいくつかあります。ユーザーがコマンドを実行してモニターを使用できるようにするかどうか制御することや、ディスプレイ上の要約情報が消去されるまでの表示継続時間をカスタマイズすることができます。

16 ページの『System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) によるシステムの管理』

ワイヤレス装置からシステムを管理することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、マネージメント・セントラルと統合サーバーの両方でモニターを操作することができます。コマンドの実行、タスクやシステムの操作、およびユーザー・アクセスの制御を行うことができます。

接続のカスタマイズ

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) への接続をカスタマイズする方法はいくつかあります。ユーザーがコマンドを実行してモニターを使用できるようにするかどうか制御することや、ディスプレイ上の要約情報が消去されるまでの表示継続時間をカスタマイズすることができます。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) から手動で機能を削除したり、アプリケーション管理を構成したりすることにより、マネージメント・セントラルへのユーザー・アクセスを制限することができます。

ユーザー・アクセスの制限

ユーザーによるワイヤレス装置からのマネージメント・セントラルの操作を制限することができます。以下のステップを実行すると、ユーザーが System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) からモニターやシステム状況を表示することはできても操作はまったく行えないようにすることができます。

以下の機能を除去することができます。

- System i プラットフォームおよび統合サーバー上でのコマンドの実行
- 統合サーバーの始動とシャットダウン
- ジョブに対する操作 (保留、保留解除、終了) の実行
- メッセージに対する操作 (応答、削除) の実行
- モニターの始動、停止、または再始動

アクセスを制限するには、次のオプション・ファイルを作成する必要があります。

1. 統合ファイル・システム上で、次のディレクトリー内に次のファイルを作成します。

ディレクトリー: QIBM/UserData/OS400/MGTC/Pervasive/

ファイル: QYPV_OPTIONS.OPT

2. 作成したファイルに、以下のテキスト・ストリングのどちらかを入力します。

- readonly=yes

QYPV_OPTIONS.OPT で readonly=yes を指定すると、ユーザーは一切の操作を実行できなくなります。

- readonly=no

QYPV_OPTIONS.OPT で readonly=no を指定すると、すべてのユーザーが以下の操作を実行できるようになります。

- System i プラットフォームおよび統合サーバー上でのコマンドの実行
- 統合サーバーの始動とシャットダウン

- ジョブに対する操作 (保留、保留解除、終了) の実行
- メッセージに対する操作 (応答、削除) の実行
- モニターの始動、停止、または再始動

また、QYPV *xxxxxx*.OPT (*xxxxxx* はユーザー ID) という名前のユーザー・オプション・ファイルを作成することもできます。このユーザー・ファイルは QYPV_OPTIONS.OPT に優先します。したがって、デフォルトですべてのユーザーに読み取り専用 (readonly=yes) 権限を付与した上で、特定のユーザーに対して全アクセス権限を付与することができます。

タスクの詳細の取得期間の設定

タスクに関する詳細な情報は要約ウィンドウから取得することができます。これらの詳細情報の有効期限は 24 時間に設定されています。24 時間が経過すると、タスクは引き続き実行できますが、タスクに関する新しいデータはセントラル・システムから取得されなくなり、ワイヤレス装置上に表示されなくなります。

有効期限を変更するには、次のオプション・ファイルを編集します。

ディレクトリー: QIBM/UserData/OS400/MGTC/Pervasive/

ファイル: QYPV_OPTIONS.OPT

このオプション・ファイルに、次の新しいエントリーを追加してください (*nnnn* は時間を表す 1 から 9999 までの整数です)。

HOURS_OLD= *nnnn*

このエントリーは、大文字小文字の区別がなく、上記の `readonly` のエントリーとは別の行に記述することも、スペース文字で区切って同じ行に記述することもできます。

次に、新たに編集したファイルの記述例を示します。

READONLY=no

HOURS_OLD=48

これにより、ユーザーに全アクセス権限が付与され、過去 48 時間以内に実行されたタスクが表示されるようになります。

共有モニターの表示

ユーザー・オプション・ファイルでは、SHARE_MON プロパティを使用して、共有モニターをワイヤレス装置上に表示するかどうかを指定します。

- SHARE_MON=yes

この値に `yes` を指定すると、共有モニターがディスプレイ上に表示されます。

- SHARE_MON=no

この値に `no` を指定すると、共有モニターはディスプレイ上に表示されません。これはデフォルト値です。

アプリケーション管理の構成

アプリケーション管理を使用してユーザーのアクセスを制御し、マネージメント・セントラルでのモニターやコマンドへのアクセスを制限または付与することができます。アプリケーション管理で選択した機能が、ワイヤレス装置からマネージメント・セントラルへの接続に関する設定に適合するように構成されていることを確認してください。

例:

- ユーザーが、マネージメント・セントラルに対する権限は与えられていないが、システム上で有効なユーザー ID を持っている場合、そのユーザーがワイヤレス装置を使用してマネージメント・セントラルに接続しようとする、権限エラー・メッセージが表示されます。
- ユーザーが、マネージメント・セントラルに対する権限は与えられているが、モニターにアクセスするためのアプリケーション管理の権限は与えられていない場合、ワイヤレス装置上にはモニターに関する情報は表示されません。
- ユーザーがマネージメント・セントラルのコマンドに対する権限を与えられていない場合、そのユーザーは統合サーバー上でコマンド定義もコマンドも実行することができません。

関連概念

12 ページの『セントラル・システムへの接続』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の使用を開始するには、最初に、セントラル・システムへの接続を確立します。セントラル・システムの URL をワイヤレス装置に入力します。

20 ページの『複数のシステムにまたがったコマンドの実行』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、複数のシステムにまたがって、任意の i5/OS コマンドを実行することができます。要約ページで「**コマンドの実行**」を選択すると、コマンドを実行するシステムまたはシステム・グループを選択するよう要求されます。あるいは、システム・リストからシステムを選択して、そのシステム上でコマンドを実行します。

関連情報

アプリケーション管理の管理

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) によるシステムの管理

ワイヤレス装置からシステムを管理することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、マネージメント・セントラルと統合サーバーの両方でモニターを操作することができます。コマンドの実行、タスクやシステムの操作、およびユーザー・アクセスの制御を行うことができます。



System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の使用方法は、非常に簡単です。セントラル・システムをセットアップしたら、その URL をインターネット対応電話、携帯情報端末 (PDA)、または従来の Web ブラウザーで入力して、セントラル・システムに接続することができます。装置がセントラル・システムに接続され、ログオンするように要求されて、すべてのシステム、モニター、およびタスクの状況の要約が表示されます。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) は、ユーザーが、システム、モニター、およびタスクが正常に稼働していることを確認できれば、他の情報は不要であるという想定に基づいて設計されています。ユーザーは、いつでも詳細な情報を表示することができ、正常に稼働しているシステムに関する詳細なモニター・メトリックを確認することもできます。しかし一般には、すべてが正常であれば、要約を確認するだけで充分でしょう。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用してシステムを管理する場合は、ユーザーが自身の環境における「正常」の意味を定義するので、ユーザーは、システムのネットワーク内のすべての要素が正常な状態であることをワイヤレス装置上で確認できれば、安心感を得られます。対象のシステムとモニターをセットアップして、特定のしきい値で起動するようにモニターを設定しておけば、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の要約ページを表示するだけで、すべてが正常に動作しているか、それとも、注意が必要な要素があるかを簡単に確認することができます。

関連概念

12 ページの『セントラル・システムへの接続』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の使用を開始するには、最初に、セントラル・システムへの接続を確立します。セントラル・システムの URL をワイヤレス装置に入力します。

3 ページの『System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のセットアップ』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用するには、ソフトウェアおよびハードウェアに関する一定の要件が満たされていなければなりません。ユーザーは、使用するワイヤレス装置の種類やインストールして構成する必要があるアプリケーションの種類を決定する必要があります。

System i モデルの操作

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用して、システム・プロパティを表示したり、表示するシステムをカスタマイズしたりすることができます。

システムを表示するには、「システム」リンクを選択します。使用不可のシステムは、すべて感嘆符付きで、太字で表示されます。デフォルトでは、「システム」リンクをクリックすると、ユーザーが権限を持っているすべてのシステムが表示されます。

それぞれのシステムも、リンクになっています。システムを選択すると、システム・プロパティ、およびそのシステム上のアクティブな統合サーバーがすべて表示されます。そのシステム上にアクティブな統合サーバーがない場合は、システム・プロパティのリンクのみが表示されます。アクティブな統合サーバーのプロパティを表示するには、「**統合サーバー (Integrated Servers)**」をクリックしてから、「**(お使いのサーバー)**」をクリックします。

ユーザーは、自分のシステム・リストをカスタマイズすることができます。システムをシステム・リストに追加またはリストから除去することができます。あるいは、デフォルトのシステム・リストを作成したり、特定ユーザー用のシステム・リストを作成したりすることができます。

リストのシステムの追加と除去

1. メニューに進み、「**システムの追加 (Add System)**」または「**システムの除去 (Remove System)**」を選択します。
2. 追加または除去するシステムを選択します。

システムをリストに追加する作業は面倒な場合もあるので、管理者は、すべてのユーザー用のデフォルト・リストとして使用される、デフォルト・システム・リストを作成することができます。ユーザーは、各自の好みに応じてこのリストをカスタマイズすることができます。この機能は、何人ものユーザーが、5 から 10 個の同じシステム上に保管されているデータに対して関心を持っている場合に役に立ちます。

デフォルトのシステム・リストの作成

次のディレクトリー内に次のファイルを作成してください。

ディレクトリー: QIBM/UserData/OS400/MGTC/Pervasive/

ファイル: QYPV_SYSTEMS.txt

このファイルを作成したら、デフォルト・リストに含めたいすべてのシステムを、コンマで区切って 1 行で記述してください。また、QYPVxxxx.txt (xxxxx は、ユーザー・プロファイル名です) というファイルを作成することにより、特定ユーザー用のシステム・リストを作成することもできます。

関連概念

『統合サーバーの操作』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、ワイヤレス装置から統合サーバーを管理することができます。

統合サーバーの操作

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、ワイヤレス装置から統合サーバーを管理することができます。

System i プラットフォームに統合サーバーをインストールしている場合は、そのプラットフォームをシステム・リストに追加することによって、System i ナビゲーターを使用してサーバーを管理できるようになります。

注: System i プラットフォームから統合サーバーを管理するには、統合サーバーと System i プラットフォームでユーザー ID およびパスワードが同じである必要があります。

システムを選択すると、システム・プロパティにリンクするか、または統合サーバーを表示することができます。統合サーバーへのリンクでは、他の System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 機能と同じ状況表示が使用されます。これにより、注意が必要な統合サーバーがあるかどうか、または、すべての統合サーバーが正常に動作しているかどうか分かります。

1 台またはすべての統合サーバー上で Windows コマンドを実行したり、サーバーのプロパティを表示したりすることができます。

1. Windows コマンドをサーバー上で実行するには、メニューで「IS コマンドの実行 (Run IS command)」を選択してから「開始 (Go)」をクリックします。
2. サーバーのプロパティを表示するには、「統合サーバー (Integrated Server)」ページでサーバーを選択します。

Windows コマンドは、マネージメント・セントラルのタスクとして開始されるため、実行したコマンドの状況を常に把握することができます。図 2 は、従来のブラウザ・フォーマットで実行されている System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) における統合サーバーのサポートを示したものです。

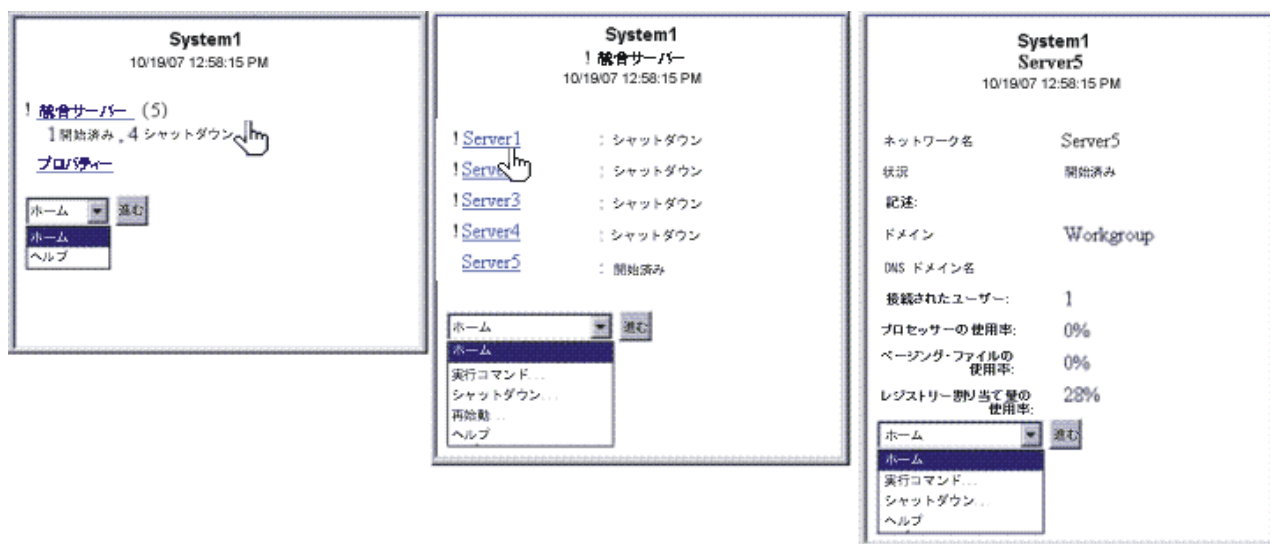


図 2. 統合サーバーをクリックすると、各システムの詳細が展開されて表示されます。

関連概念

17 ページの『System i モデルの操作』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用して、システム・プロパティを表示したり、表示するシステムをカスタマイズしたりすることができます。

BladeCenter および System x との System i の統合 (System i integration with BladeCenter and System x)

タスクの操作

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、すべてのマネージメント・セントラルのタスクに関する要約の詳細を表示することができます。

メイン・サマリー・ウィンドウで、「タスク」をクリックすると、以下のマネージメント・セントラルのタスクに関するサマリーの詳細が表示されます。

- コマンド
- パッケージと製品
- インベントリー
- 修正
- 収集サービス

- ユーザーとグループ
- システム値

タスクの要約には、タスクの種類ごとに、タスクの合計数、正常に実行されなかったタスク数、および実行が完了したタスク数が表示されます。リストには、過去 24 時間以内に実行されたタスクのみが表示されません。過去 24 時間の間にコマンドがまったく実行されていない場合は、タスクの要約ウィンドウにはコマンドに関する情報は表示されません。タスク情報の有効期限は 24 時間に設定されていますが、接続をカスタマイズすることにより、この有効期限を変更することができます。

「**コマンド**」などの特定のタスクをクリックすると、開始される予定のコマンド・タスク、実行が完了したコマンド・タスク、または正常に実行されなかったコマンド・タスクの名前が表示されます。特定のタスクの名前をクリックすると、このタスクが実行されていたかまたは実行されているエンドポイント・システムが表示されます。

関連概念

14 ページの『接続のカスタマイズ』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) への接続をカスタマイズする方法はいくつかあります。ユーザーがコマンドを実行してモニターを使用できるようにするかどうか制御することや、ディスプレイ上の要約情報が消去されるまでの表示継続時間をカスタマイズすることができます。

複数のシステムにまたがったコマンドの実行

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、複数のシステムにまたがって、任意の i5/OS コマンドを実行することができます。要約ページで「**コマンドの実行**」を選択すると、コマンドを実行するシステムまたはシステム・グループを選択するよう要求されます。あるいは、システム・リストからシステムを選択して、そのシステム上でコマンドを実行します。

「**コマンドの実行**」を選択した場合は、既存のコマンド定義 (マネージメント・セントラルでユーザーが定義) を選択することも、任意のコマンドを入力することもできます。電話機上で文字列を入力するのは面倒なので、コマンド定義を使用すると非常に便利です。

コマンドは、開始の際、マネージメント・セントラルのタスクとして開始されます。このため、ユーザーは、これらのコマンドの記録を取ったり、すべてのシステムにまたがって状況を確認したり、要約ページで全体の状況を確認したりすることができます。要約ページには、過去 24 時間以内にワイヤレス装置上で、マネージメント・セントラルを使用して実行したすべてのタスク (System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) も含む) が表示されます。24 時間経過後は、PC 上の System i ナビゲーターを使用してコマンド・タスクを表示する必要があります。24 時間よりも長く、ワイヤレス装置上にタスクの詳細を表示させたい場合は、接続をカスタマイズすることができます。

21 ページの図 3 は、携帯情報端末 (PDA) フォーマットの System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) での、コマンドのサポート例を示しています。コマンドが正常に実行された場合は、プラス記号 (+) が表示されます。画像を表示できるインターネット対応電話では、正常に実行されたコマンドはスマイル・マークのアイコンで示されます。



図3. コマンドの状況の表示

関連概念

14 ページの『接続のカスタマイズ』

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) への接続をカスタマイズする方法はいくつかあります。ユーザーがコマンドを実行してモニターを使用できるようにするかどうか制御することや、ディスプレイ上の要約情報が消去されるまでの表示継続時間をカスタマイズすることができます。

関連資料

コマンド定義の作成

モニターの表示および操作

実行するモニターをマネージメント・セントラルであらかじめ構成しておくことにより、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用して、システム・モニター、メッセージ・モニター、ジョブ・モニター、ファイル・モニター、および企業間取引 (B2B) 活動モニターを表示したり操作したりすることができます。

次の図では、それぞれのインターネット対応電話にシステムの詳細なメトリック情報が表示されています。



図4. ワイヤレス装置上でのモニターのメトリックの表示

システム・モニター

システム・モニターを操作して、モニター中のメトリックや現行値、およびメトリック値を構成している上位 20 個の要素 (ジョブやディスク装置など) を表示することができます。また、モニターにリストされたジョブを操作 (詳細の表示、保留、保留解除、および終了) することもできます。

システム・モニターのリンクを選択すると、すべてのアクティブなシステム・モニターのリストが表示されます (停止されたモニターは表示されません)。いずれかのモニターに障害が発生した場合またはモニターが起動した場合は、そのモニターの横に感嘆符またはベルが表示されます。

モニターを選択すると、このモニターが稼働しているすべてのシステムが表示され、システムを選択すると、このモニター内のすべてのメトリック、および選択したシステムに関する値が表示されます。

対象のメトリックが表示されたら、そのメトリックを選択して、そのメトリック値の要素のうち最も該当するものから順に上位 20 個まで表示することができます。たとえば、「CPU 平均 (CPU average)」を選択すると、CPU の使用率が高い順に 20 個のジョブが表示されます。または、「ディスク使用率 (Disk utilization)」を選択すると、ディスク使用率が高い順に 20 台のディスク装置が表示されます。

注: マネージメント・セントラルでは、複数のユーザーがシステム・モニターを共有することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、自分が作成したシステム・モニターだけでなく、すべての共有モニターを表示することができます。

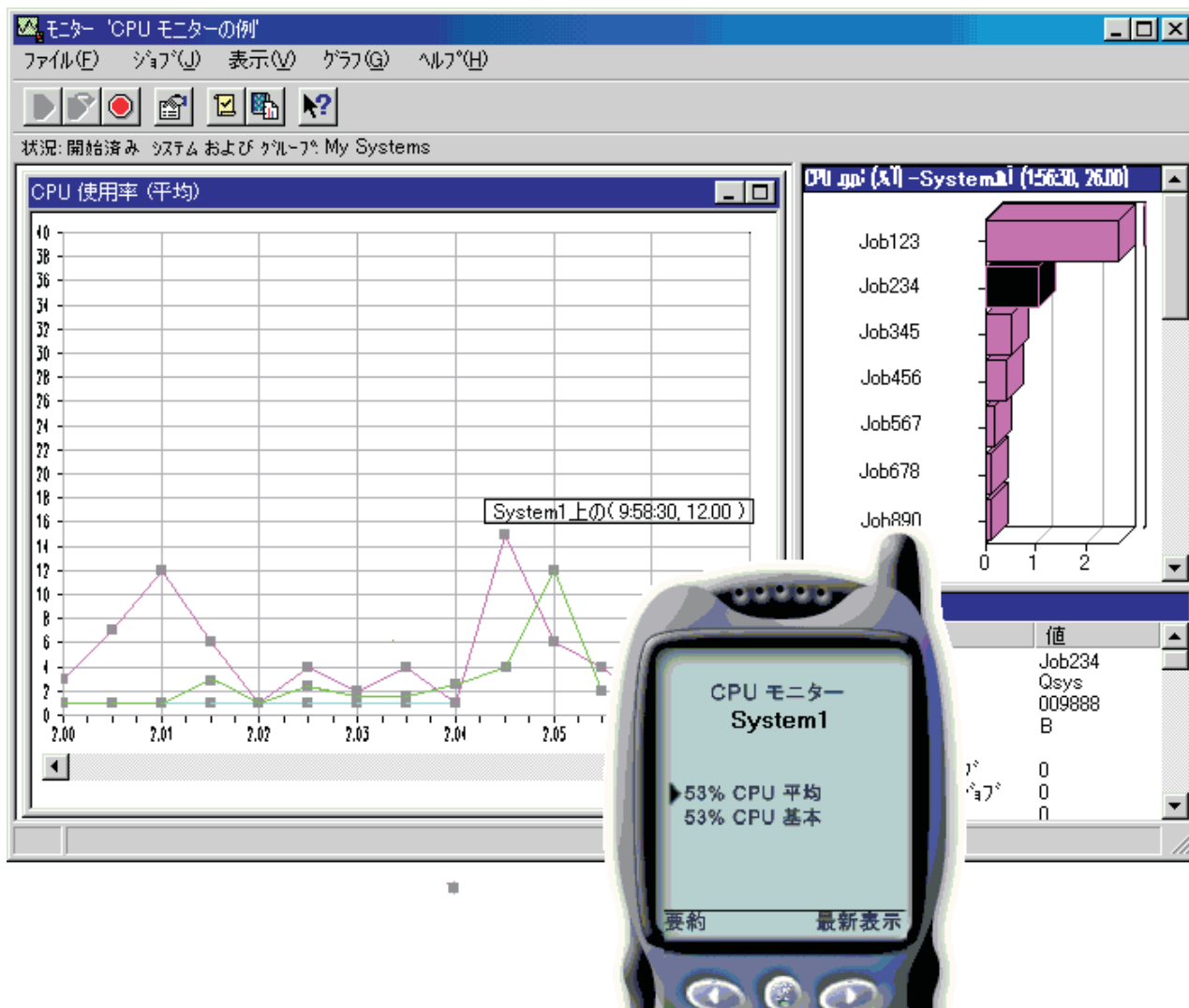


図5. ワイヤレス装置上でのシステム・モニターのメトリックの表示

ジョブのリストから、ジョブを選択して詳細を表示することもでき、また、「保留」、「保留解除」、または「終了」を選択することにより、このジョブを操作することもできます。

各ページを最新表示にすることで、いつでもリストを最新表示にすることができます。また、「ホーム」を選択して、更新された要約ページを表示することもできます。

ディスプレイ・サイズが非常に小さいため、システム・モニターのメトリック名は短縮して表示されます。次の表に、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) でシステム・モニターのそれぞれのメトリック名がどのように表示されるかを示します。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 上でのモニターのメトリック名

システム・モニターのメトリック名	System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 上に表示される名前	計測単位
CPU 使用率 (平均)	CPU 平均	% 使用中
CPU 使用率 (対話型ジョブ)	CPU 間ジョブ	% 使用中
CPU 使用率 (対話型フィーチャー)	CPU 機構間	%

システム・モニターのメトリック名	System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 上に表示される名前	計測単位
CPU 使用率基本 (平均)	CPU 基本	% 使用中
CPU 使用率 (2 次作業負荷)	CPU 第 2 ワークロード	%
CPU 使用率 (データベース機能)	CPU DB	%
対話応答時間 (平均)	相互応答時間平均	秒
対話応答時間 (最大)	相互応答時間最大	秒
トランザクション率 (平均)	転送レートの平均	トランザクション数/秒
トランザクション率 (対話式)	相互転送レート	トランザクション数/秒
バッチ論理データベース入出力	バッチ DB I/O	入出力/秒
ディスク・アーム使用率 (平均)	ディスク使用平均	% 使用中
ディスク・アーム使用率 (最大)	ディスク使用最大	% 使用中
ディスク記憶域 (平均)	ディスク記憶平均	% 満杯
ディスク記憶域 (最大)	ディスク記憶最大	% 満杯
ディスク IOP 使用率 (平均)	ディスク IOP 平均	% 使用中
ディスク IOP 使用率 (最大)	ディスク IOP 最大	% 使用中
通信 IOP 使用率 (平均)	通信 IOP 平均	% 使用中
通信 IOP 使用率 (最大)	通信 IOP 最大	% 使用中
通信回線使用率 (平均)	通信回線平均	% 使用中
通信回線使用率 (最大)	通信回線最大	% 使用中
LAN 使用率 (平均)	LAN 平均	% 使用中
LAN 使用率 (最大)	LAN 最大	% 使用中
マシン・プールの障害数	マシン・プール障害	障害数/秒
ユーザー・プールの障害数 (平均)	ユーザー・プール障害平均	障害数/秒
ユーザー・プールの障害数 (最大)	ユーザー・プール障害最大	障害数/秒

関連概念

25 ページの『メッセージ・モニター』

メッセージ・モニターを操作して、モニター基準に合致するすべてのメッセージを、複数のシステムにまたがって表示することができます。また、モニターにリストされたメッセージを操作 (詳細の表示、応答、および削除) することができます。

『ジョブ・モニター』

ジョブ・モニターを操作して、モニター基準に合致するすべてのジョブを、複数のシステムにまたがって表示することができます。また、モニター中のメトリックや現行値を表示したり、モニターにリストされているジョブを操作 (詳細の表示、保留、保留解除、および終了) したりすることができます。

ジョブ・モニター

ジョブ・モニターを操作して、モニター基準に合致するすべてのジョブを、複数のシステムにまたがって表示することができます。また、モニター中のメトリックや現行値を表示したり、モニターにリストされているジョブを操作 (詳細の表示、保留、保留解除、および終了) したりすることができます。

ジョブ・モニターは、システム・モニターが System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) で動作するのと同じように動作します。マネージメント・セントラルでジョブ・モニターを作成すると、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 上で、そのジョブ・モニターを開始、停止、および表示することができます。ま

た、ジョブ・モニターの全体状況やジョブ・モニターが稼働しているシステムのリストを表示したり、モニター基準に合致しているジョブをシステムごとに表示したり、「保留」、「保留解除」、または「終了」を使用してジョブを操作したりすることができます。

注: マネージメント・セントラルでは、複数のユーザーがジョブ・モニターを共有することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、自分が作成したジョブ・モニターだけでなく、すべての共有モニターを表示することができます。

関連概念

22 ページの『システム・モニター』

システム・モニターを操作して、モニター中のメトリックや現行値、およびメトリック値を構成している上位 20 個の要素 (ジョブやディスク装置など) を表示することができます。また、モニターにリストされたジョブを操作 (詳細の表示、保留、保留解除、および終了) することもできます。

メッセージ・モニター

メッセージ・モニターを操作して、モニター基準に合致するすべてのメッセージを、複数のシステムにまたがって表示することができます。また、モニターにリストされたメッセージを操作 (詳細の表示、応答、および削除) することができます。

メッセージ・モニターは、システム・モニターが System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) で動作するのと同じように動作します。マネージメント・セントラルでメッセージ・モニターを作成すると、そのメッセージ・モニターが System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 上に表示されます。この結果、メッセージ・モニターの全体状況やメッセージ・モニターが稼働しているシステムのリストを表示したり、モニター基準に合致しているメッセージをシステムごとに表示したり、「詳細」、「応答」、または「削除」を使用してメッセージを操作したりできるようになります。

注: マネージメント・セントラルでは、複数のユーザーがメッセージ・モニターを共有することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、自分が作成したメッセージ・モニターだけでなく、すべての共有モニターを表示することができます。

関連概念

22 ページの『システム・モニター』

システム・モニターを操作して、モニター中のメトリックや現行値、およびメトリック値を構成している上位 20 個の要素 (ジョブやディスク装置など) を表示することができます。また、モニターにリストされたジョブを操作 (詳細の表示、保留、保留解除、および終了) することもできます。

ファイル・モニター

ファイル・モニターを使用すると、選択したファイルに変更が加えられる度にユーザーに通知されるようにすることができます。また、指定したサイズや指定した文字列を対象にモニターすることもできます。

マネージメント・セントラルでファイル・モニターを作成したら、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 上で、このファイル・モニターを始動または停止したり、その詳細を表示したりすることができます。ファイル・モニターの要約ウィンドウには、このモニターが稼働しているシステム、表示している現在のファイルへのパス、ファイルのサイズ、ファイルの最終変更日時、およびファイルを生成した変更テキストが表示されます。

注: マネージメント・セントラルでは、複数のユーザーがファイル・モニターを共有することができます。System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用すると、自分が作成したファイル・モニターだけでなく、すべての共有モニターを表示することができます。

B2B 活動モニター

Connect for System i のようなアプリケーションが構成されている場合は、企業間取引 (B2B) 活動モニターを使用して、B2B トランザクションをモニターすることができます。ワイヤレス装置から、モニター中のメトリックや現在の B2B トランザクション値を表示することができます。

企業間取引活動モニターを使用するには、Connect for System i のようなアプリケーションから収集された B2B トランザクションをログに記録するための統合システムを構成する必要があります。

マネージメント・セントラルで B2B 活動モニターをセットアップしたら、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) 上で、この活動モニターを開始または停止したり、その詳細を表示したりすることができます。また、B2B 活動モニターから収集された、アクティブ・トランザクション継続時間やアクティブ・トランザクション数トリガーに関する要約状態を表示することもできます。

注: System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) を使用して表示する B2B 活動モニターのデータは、OS/400 V5R2 以降を実行しているシステム上になければなりません。OS/400 V5R1 以前を実行するシステム上に格納されている B2B 活動モニターのデータは、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) で扱うことはできません。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の関連情報

IBM の Redbooks 資料および Web サイトでは、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) に関連する情報を提供しています。また、すべての PDF ファイルを必要に応じて表示、印刷することができます。

IBM Redbooks


AS/400 インターネット・セキュリティーのシナリオ: 実践的なアプローチ (AS/400 Internet Security

Scenarios: A Practical Approach) 


統合ネットワーク・セキュリティー機能の使用法について解説しています。今日、ネットワーク管理者は、ますます高度化するハッカーからネットワークを保護するために、階層化されたセキュリティー・アーキテクチャーを実装する必要があるという課題に直面しています。管理可能な予算内で必要なセキュリティーをすべて提供することは、煩雑な作業です。この IBM Redbooks 資料では、IP フィルター、ネットワーク・アドレス変換 (NAT)、仮想プライベート・ネットワーク (VPN)、HTTP プロキシ・サーバー、Secure Sockets Layer (SSL)、ドメイン・ネーム・システム (DNS)、メール・リレー、監査、およびロギングといった、このシステム上で使用可能なすべてのネットワーク・セキュリティー機能について説明します。また、実践的な例を通じてこれらの機能の使用方法についても説明します。

このシステムは、ファイアウォールとしての使用が目的ではありませんが、その豊富なネットワーク・セキュリティー・サービスのセットを、ルーターなどのインターネット・セキュリティー装置と組み合わせて正しく実装することにより、別個のファイアウォール製品を使用しなくても済むようになる場合もあります。場合によっては、AS/400 は、小規模なサイトに対して手ごろなソリューションを提供することもできます。ネットワーク・セキュリティー機能を使用することにより、ファイアウォール・セキュリティー機能付きのルーターも使用されている環境のセキュリティーを向上させることができます。この資料は、インターネットに接続されているネットワークの設計、実装、構成を計画したり、従来のファイアウォール製品の代替手段を検討したりしているネットワーク管理者、コンサルタント、および専門家のニーズに対応できるように作成されています。

Web サイト

- System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) についての詳細は、System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のホーム・ページ  を参照してください。

System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) のホーム・ページには、パーベイシブ・コンピューティングに対応したこのソリューションに関する詳細な情報が記載されています。このページでは、サポート対象のリリースに関する情報も参照することができます。

- System i ナビゲーターについての詳細は、System i ナビゲーターのホーム・ページ  を参照してください。

マネージメント・セントラルの機能に加えて、System i ナビゲーターには、System i の管理を簡単にするためのさまざまなツールが装備されています。System i ナビゲーターのホーム・ページでは、機能のリリース概要、技術会議に関するニュース、およびその他のトピックを提供しています。

関連資料

2 ページの『System i ナビゲーター (ワイヤレス対応) の PDF ファイル』
この情報の PDF ファイルを表示および印刷することができます。

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-8711
東京都港区六本木 3-2-12
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとしします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department YBWA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

- | 本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム
- | 契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、IBM 機械コードのご使用条件、またはそれと同等の条項
- | に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プログラミング・インターフェース情報

本書には、プログラムを作成するユーザーが IBM i5/OS のサービスを使用するためのプログラミング・インターフェースが記述されています。

商標

以下は、International Business Machines Corporation の米国およびその他の国における商標です。

- | AS/400
- | i5/OS
- | IBM
- | IBM (ロゴ)
- | Redbooks
- | OS/400
- | System i

- | Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、および PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



Printed in Japan